

(1) 教育活動への取組と自己評価

観点	(1) 教育活動の目標と方策	成果と課題
学習指導	【目標】 ○ 基礎学力の定着と主体的、意欲的な学習態度の育成	
	【方策】	
	① 培ってきたALをより効果的に進化させ、さらにユニバーサルデザインを意識した授業実践	コロナ禍、ICT機器を活用した授業実践が推進された。ベテラン教員のAL授業への取組強化推進し学力定着に繋げたい。
	② 学力スタンダードに基づいた組織的な学習指導により、主体的な姿勢及び汎用性のある思考力の育成	学スタは定着しているが、教員間の差が大きく、組織的に取り組むことが課題。
	③ 「総合的な探究の時間」の指導体制の確立	委員会が中心となり、着任者には研修等を実施し、全教員で取組む体制は構築できた。
	④ 長期休業中における講習計画の充実と主体的な学習姿勢を育成する指導体制の強化	進路指導部が主導する、休業中等の講習計画は昨年並となった。今後も講座内容と効果的な指導方法を追求したい。
⑤ 土曜日や放課後を活用した補習や講習による学習支援及び発展的な学習機会の提供	各教科とも補習・講習は熱心に行った。また実施教科を3教科から5教科に拡大できたことで改善につながった。	
健康づくり 生活指導	【目標】 ○ 規範意識の向上と基本的生活習慣の確立	
	【方策】	
	① 全教員の共通理解による遅刻・頭髪・服装指導の実施	生徒保健部と学年の連携が若干不足した。
	② 携帯・スマホの使用マナーの徹底及びセーフティ教室によるネットアクセス等の危険防止教育の推進	セーフティ教室はじめ、あらゆる機会に啓発を行ったが、継続して教育が必要
	③ 「安全教育推進校」として交通安全教育、交通法規遵守の徹底、HR等を活用した安全教育の浸透	自転車運転に関する安全指導は推進できたが、ヘルメット着用に関しては課題がある。
	④ 校内美化の継続及び美化活動に対する意識の高揚	意識は高まっているが、さらに推進したい。
⑤ すべての教育活動を通して、自他を尊重する態度を育成する	人権学習、人間と社会、総合的な探究の時間等の授業を通して、全教員の指導目標となっているので、今後もじっくりと取り組んでいく。	
進路指導	【目標】 ○ 生徒自らが将来の進路を真剣に考える姿勢の醸成及び進路の第一志望の実現	
	【方策】	
	① 進路指導部と学年が連携した進路ガイダンスの充実	進路指導部を中心に進路行事を充実させ、学年とともに系統的な進路指導ができた。
	② 生徒の具体的目標に合致した各種講習や模擬試験の実施	進路希望別の説明会、また進路希望に応じた模擬試験等を実施した。
③ 様々な経験を持つ方などの講話等、キャリア教育の実現	卒業生の体験講話は実施できた。今後、外部連携関係団体等も活用し、推進していく。	

特別活動	【目標】 ○ 三大大行事を中心とした学校行事、部活動などによる主体性と自信の獲得	
	【方策】	
	① 各行事における実行委員の計画的な育成	コロナ禍で行事が少ない中、具体的な指導、育成ができず今後の課題となった。
	② ボランティア活動の積極的な活動の推進と生徒会活動の活性化	ボランティア活動は、地域連携を重視し活性化された。
	③ 国際交流活動等を通し、オリパラ教育を実施するとともにレガシーとして、ボランティア活動、多様な文化理解等の教育の継続的推進	国際交流活動は、留学生との活動が行われた。また自然災害に対する募金活動を国際理解教育として行った。
④ 生命の大切さを伝える指導、カウンセリングの充実によるいじめ、自殺の未然防止指導の実践	様々な関係機関との連携を含め、自立支援教育に関する体制は整備されてきた。引き続き「命にかかわる指導」を充実・強化させていきたい。	
募集広報活動	【目標】 ○ 教職員全身体制による募集・広報活動による応募倍率の向上	
	【方策】	
	① 学校説明会、学校見学会、中学校訪問の工夫と充実	イブ学校説明会等も企画し、参加数が大幅増加となった。今後も受験生のニーズを正確に把握し、工夫することで魅力ある学校説明会等を行っていく。
② HP や掲示板の更新による最新情報の発信	学校 HP 及びツイッター、ユーチューブ等の発信を、大幅に増加させた。今後も質の高い情報発信を推進する。	
学校経営組織体制	【目標】 ○ 企画調整会議と分掌部会・経営企画室との双方向性の維持と情報共有の徹底 ○ 教職員の働き方改革の実現	
	【方策】	
	① 企画調整会議、各種会議による各組織間の連携強化と情報の共有化	各組織間の連携強化は、教員の意識に差があり、課題がある。全ての会議を1時間以内の目標を浸透させることはおおむねできた。働き方改革との関連で、業務縮減しながら、組織力を高めるための方策を考える必要がある。
	② 着実な予算申請、ヒアリング等による適正な自律予算補正予算の編成と計画的な執行	企画室担当者の主導により、適切な執行及び予算案の作成が行えた。
	③ 体罰禁止、個人情報の徹底管理、コンプライアンスの周知徹底	服務研修及び、会議等で随時注意喚起を行った。継続は必須である。引き続き服務事故0を目指す。
④ 効率的かつ健康的な業務の遂行による教職員のライフワークバランスの実現	ライフワークバランスは、実質的な対応策、工夫が必要な段階である。	

(2) 重点目標への取組と自己評価

(自己評価の標語 A: 十分達成 B: 達成 C: やや不十分 D: 不十分)

教育活動の目標と方策	成果と課題	自己評価
学習指導		
① 授業規律の確立	始業終業はじめ授業規律の確立は定着した。各教員が授業に関して創意工夫している。引き続き全員で取り組んで行く。	B
② アクティブ・ラーニングの活用及びユニバーサルデザインの工夫による主体的学習姿勢の育成 《授業満足度(わかりやすい授業)90%》	ほぼすべての教員が、授業の中でアクティブ・ラーニングを取り入れ、授業展開に努めている。今後は、AL 授業等深化させ学力定着に繋げたい。 授業満足度 89%	B
③ 土曜日や放課後の補習・講習の実施による、基礎学力の定着と学習意欲の醸成	土曜講習は定着し、3 教科から 5 教科に拡大した。放課後の補習などでも単位修得支援を充実させた。学力の向上及び、意欲の喚起は、さらに工夫が必要である。	B
生活指導		
① 学年と生徒保健部との連携、カウンセリング等の活用による遅刻の減少 《1日 30 名以内》	遅刻指導は、全教員で指導を行ってきたが、学年差が大きく 平均 1 日 30 名以内 の目標達成はできなかった。自立支援関連では教育相談委員会を定期的に開催し、担任、YSW 等との連携を充実強化を図り、生徒の精神的なケアは行えた。	B
② 身だしなみ違反者、携帯等のルール違反者を出さない指導の徹底	定期的な指導に加え、日常的に指導を継続しているが、全教員の共通認識の不足から連携不足を感じた。今後も継続した指導を行う。	B
③ 問題行動の未然防止及び再発防止	年間件数は 10 件を超え、課題が残った。日々の細かな指導、SNS 関係の注意喚起は引き続き行っていく。	B
④ 健康で安全な生活を送るための判断力及び意識の向上	薬物乱用防止等行い安全教育に関指導を強化した。交通安全指導は充実させたが、ヘルメット着用に向けた指導は、今後の課題である。	B
進路指導		
① 生徒の進路希望の実現 《進路指導満足度 88%》 《進級率 99%》	コロナ禍、進路指導部と学級担任が、協力して指導を行った。特に就職指導は、夏期休業中に十分時間をとり粘り強く指導することができた。 進路指導満足度 90% 進級率 96%	A
特別活動		
① 行事の活性化とボランティア活動の推進 《ボランティア個人参加者のべ 50 名》 《部活動加入率 70%以上》	様々な団体と連携しボランティア活動は活発化した。部活加入率は、さらに向上させたい。 ボランティア個人参加者のべ 179 名 部活動加入率 70%	A
募集広報活動		
① 応募倍率の向上と HP の充実 《学校 HP 更新数 400 回以上》 《出前授業 1 回以上》	500 回以上の情報発信ができた。クラス増 1 にも関わらず入選倍率も健闘した。出前授業は 4 回開催した。	A
学校経営組織体制		
① 分掌間、教員と経営企画室、学年と分掌等の意思疎通と情報共有	組織化、連携の観点から企画調整会議の機能向上について、改善を図っていくことが求められる。	B
② 効率的な業務の推進 《サービス事故ゼロ》 《体罰ゼロ》	研修会や会議毎に、サービスについて注意喚起を行った結果、 体罰は 0 件、サービス事故は 0 件 を維持できた。	A

(3) 次年度以降の課題と対応策

学校評価アンケート等から、次のような課題と対応策が考えられる。

(1) 授業・学習について

「ためになる授業」の項目に関する肯定的な意見—生徒 89%、教員 86%

「自ら考え積極的に」の項目に関する肯定的な意見—生徒 78%、教員 33%

コロナ禍、本校独自の若手教員自主研修会「たけのこ会」が教科指導において、ベテラン教員の意識改善に役立っている。土曜講習は、3教科から5教科に課題実施できた。今後はICT等を活用した様々な工夫をさらに重ね、充実した講習会にしていきたい。相互授業観察は、さらに気軽に見学できる環境を整えることが求められる。

【課題】

- 1—オンライン授業における特にベテラン教員のスキル向上、創意・工夫の推進
- 2—土曜講習等の実施方法の工夫

【対応策】

- 1—情報管理委員会、若手教員を活用した教員研修会等の充実
- 2—3教科から5教科維持と実施方法の改善検討

(2) 教科外活動について

コロナ禍であったが、「学校行事」「生徒会活動」「ボランティア活動」は、徐々にコロナ前を意識した活動に改善されてきた。生徒会活動・部活動は、コロナ前を見据え活性化を図りたい。

【課題】

- 1—「生徒会活動」等の充実
- 2—「部活動」の更なる活性化

【対応策】

- 1—外部連携等、生徒の主体性やリーダー育成の推進
- 2—文スポの活用等、生徒の主体性やリーダー育成の推進

(3) 情報発信、広報活動について

クラッシーを活用したことで出欠確認や保護者連絡等は、業務縮減に貢献した。学校HP、ツイッター、YouTube等による情報発信は、500回を超えた。出前授業は、ここ数年コロナ禍でできずにいたが、今年度は4回実施できた。

【課題】

- 1—淵江高校の目指す姿を明確にした質の高い情報発信
- 2—出前授業の実施維持・拡大

【対応策】

- 1—学校経営計画の周知、明確化を基にした情報発信の創意工夫
- 2—出前授業の創意工夫に向けた内容検討

(4) ライフワークバランスについて

教員で「ライフワークバランス」を意識している割合は39%であった。男性教員にも育休取得等についての必要性を働きかけていくことが求められている。

【課題】

- 1—各種会議の1時間以内の厳守
- 2—教員間へ「ライフワークバランス」、業務の効率化に関する周知、徹底

【対応策】

- 1—特に企画調整会議の会議参加者への意識付け
- 2—あらゆる機会を通して周知、意識付けを図る。